

**発趣の発菩提心の学処****三学**

発趣の発菩提心の学処は、三種類です。

- 1) 増上戒学と
- 2) 増上心学と、
- 3) 増上慧学です。

そのようにまた『菩提道灯論』(訳註 1)に、「[[自己の身語意が浄められる因である] 発趣の心の本体 [である] 律儀に住することにより、戒 [など] の三学をよく学んで、戒 [など] の三学への尊敬が大きくなる。」と説かれています。

そのうち、増上戒学は施しと戒と忍と [合計] 三つです。増上心学は静慮(禅定)です。増上慧学は智恵です。精進は三つとももの助けです。そのように『莊嚴経論』(訳註 2)に「[[増上] 三学に関して、勝者は六波羅蜜を正しく説明なさった。初め [の戒学] は [施・戒・忍の] 三つ、終わりの [定学・慧学] 二つは [静慮・智恵の] 二種類。(精進) 一つは三 [学] ともにも属している」と説かれています。

Training in Action Bodhicitta B. Training in Action Bodhicitta. Action bodhicitta has three types of trainings: the training in superior morality, the training in superior thought, and the training in superior wisdom awareness. The Lamp for the Path to Enlightenment says: If one maintains the vow of action bodhicitta And trains well in the three types of moral ethics Devotion for the three moral trainings will increase. Generosity, moral ethics, and patience are the trainings in superior morality. Meditative concentration is the training in superior thought. Discriminating wisdom awareness is the training in superior wisdom. Perseverance is the support for all three.

**三学 (さんがく) 仏教語大辞典**

仏道を学ぶために最も大切な基本的修行を三つに整理したもの。戒学・定学・慧学の三つ。戒学は悪を止め、善に努めること。定学は心をしずめ雑念を払って精神統一を行うこと。慧学はこれらのうえに立って真実の姿を求め究めること。また、増上 (増上は卓越の意) 戒学・増上定学・増上慧学ともいう。

- |         |   |   |          |
|---------|---|---|----------|
| 1) 増上戒学 | → | the training in superior morality         | 優れた道德の訓練 |
| 2) 増上心学 | → | the training in superior thought          | 優れた思考の訓練 |
| 3) 増上慧学 | → | the training in superior wisdom awareness | 優れた知恵の訓練 |

(訳註 1)

本論は tshul khriims bslab pa gsum を戒定慧の三学と解釈しているので、「戒 [など] の三学」と翻訳したが、『道灯論自註積』自体は増上戒学の個所において、「戒の三つの学は、律儀戒と摂善法戒と饒益有情戒です。」と三種類の戒だと理解し、以下にその各々を説明している。なお「増上」は他と共通せず、勝れていることをいう。

**六波羅蜜(訳註 3)**

ゆえに、撰義は、「施しと戒と忍と精進と静慮と智恵-そのようにこの六種類により、(V155)発趣の発心の学処は包摂されている。」というのです。

『善臂所問経』(訳註 4)にもまた、「善臂よ、菩薩大士は速やかに現等覚せんがために、(H70b) これら六つの波羅蜜(完成)を常に継続的に完成すべきです。六つは何かというと、すなわち、1) 布施の波羅蜜(施しの完成) と、2) 戒の波羅蜜(戒の完成) と、3) 忍の波羅蜜(忍の完成) と、4) 精進の波羅蜜(努力の完成) と、5) 静慮の波羅蜜(禅定の完成) と、6) 第六、般若の波羅蜜(智恵の完成)です。」と説かれています。

これら六波羅蜜(完成) もまた、

- 1) 撰義の設定と、
- 2) 支分の広積

との二つにより知るべきです。

The Ornament of Mahayana Sutra says: With respect to the three trainings, The Victorious One explained the six paramitas well. The first three belong to the first training, The last two belong to the last two And one belongs to all three. Therefore, the summary: Generosity, moral ethics, patience, Perseverance, meditative concentration and discriminating wisdom-These These six comprise the training in action bodhicitta. The Subahu-Requested Sutra says: Subahu, in order for a bodhisattva mahasattva to achieve enlightenment lightenment quickly, he must persistently concentrate on full perfection fection of the six paramitas. What are these six? They are: perfection fection of generosity, perfection of moral ethics, perfection of patience, perfection of perseverance, perfection of meditative concentration, and perfection of wisdom awareness. These six will be explained in a concise way and then each branch in more detail.

- |                    |  |           |
|--------------------|--|-----------|
| 1)布施の波羅蜜(施しの完成)    | perfection (fection) of generosity     | 寛大な行為の完成  |
| 2)戒の波羅蜜(戒の完成)      | perfection of moral ethics             | 道徳的倫理の完成  |
| 3)忍の波羅蜜(忍の完成)      | perfection of patience                 | 忍耐の完成     |
| 4)精進の波羅蜜(努力の完成)    | perfection of perseverance             | 粘り強さの完成   |
| 5)静慮の波羅蜜(禅定の完成)    | perfection of meditative concentration | 瞑想的な集中の完成 |
| 6)第六、般若の波羅蜜(智恵の完成) | perfection of wisdom awareness         | 知恵の認識の完成  |

### 六波羅蜜(訳註 3)

paramita の語義について、インド古典文法学からは『完成』の意味になるが、仏教では伝統的に通俗的語源解釈より「到彼岸」「度」とされてきたことに関しては、三枝充憲「概説一ボサツ、ハラミツ」(『講座大乘仏教1 大乘仏教とは何か』1981) pp. 141-146; また以下の内容については、早島理「六波羅蜜」考-M S A XIV章を中心に」(『印度学仏教学研究』63(32-1)1983)を参照。

『教次第大論』は六波羅蜜の記述も様々な経論の所説を組み込んで複雑なものとなっている。それに対して、『解脱莊嚴』は整理されて分かりやすくなっている。

### 般若 (はんにゃ) まんが仏教語辞典(ひろちさや)

現在、日本人にもっともよく知られた仏教の経典は、『般若心経』であろう。その『般若心経』の「般若」と

は、サンスクリット語の"プラジュニャ" (あるいは、その俗語形であるパーリ語の“パンニャー”の音訳語であり、その意味は「智慧」である。

### 彼岸 (ひがん) まんが仏教語辞典(ひろちさや)

「彼岸」の語は、「到彼岸」の略とされている。迷いの此岸を去って、悟りの彼岸に到るといのが本来の意味だ。サンスクリット語では、これを"パーラミター"といい、漢訳仏典ではそのまま"波羅蜜多"と音訳している。

"波羅蜜多"といえば、あの有名な『般若心経』の正しい経典名が、『般若波羅蜜多心経』であることを知っておられる人も多いと思う。"般若"は「智慧」の意であるから、あの経典は、「智慧でもって悟りの向こう岸(彼岸)に渡る方法の精髓(心)を教えたお経」なのである。

### リンポチェ御法話より

『「波羅蜜」という言葉は、「向こう岸に到る」ということを意味します。たとえば、河などがありましたら、河のこちら岸から向こう岸に渡る時には、橋か何かを通して向こうに渡らなければいけません。そのように「向こう岸に渡る」ことを「波羅蜜」と言います。我々が仕事を始めたら、最後の究極に到ることが必要ですけれども、そのことを仏教では「波羅蜜」と言っています。

では、どこに到ることを意味するのか。まず、我々がいるのはどこかと言いますと、輪廻の中にいるのです。輪廻というのは苦しみの中にいるということです。ですので、「それらの苦しみから逃れる」ことを意味します。河を渡るときに橋を渡らなければいけないように、この「六波羅蜜」という教えを実践することによって、輪廻の苦しみから逃れる、そして、仏の境地へと到る、そのための「六波羅蜜」という教えです。』

## 撰義の設定

第一:撰義の設定について、撰義は、<sup>ウツダーナ</sup>「数の決定と順序の決定と自相(定義)と語釈と区別と包摂--(これら)六つにより、六波羅蜜は包摂されている。」というのです。(訳註 5)

Explanation of the concise meaning. The summary: Definite number, definite order, Characteristics, definition, Division, and grouping-These These six comprise the six paramitas.

(訳註 5)

『莊嚴經論』にまず、「数とその自相、順序と語釈と功德の教習と区別、包摂と所対治分、功德、相互の決定です。」という。これは『教次第大論』に引用。

## 数の決定

そのうち、波羅蜜(完成)が六つに数が決定することは、

- 1) [人・天の善き生である] 繁栄と、
- 2) [解脱と一切智である] 至善に関してです。

繁栄の義は三つ、至善の義は三つです。

そのうち、[第一:]繁栄の義の三つは、[受用すべき] 資財のために施しです。身体のために戒です。眷属のために忍です。

[第二:]至善の義の三つは、功德を増長させるために精進です。止住のためにです。勝観のために智慧です。

そのようにまた『莊嚴經論』(Res)に「[受用すべき] 資財と身体の円満と (v156) 眷属の円満は繁栄」などと説かれています。

1. Definite Number. The six paramitas are explained according to temporary higher status and definite goodness, with three for temporary rary higher status and three for definite goodness. The three for temporary porary higher status are generosity, which is for wealth; moral ethics, which is for the body; and patience, which is for surrounding people. The three for definite goodness are perseverance, which is for increasing ing virtue; meditative concentration, which is for calm abiding; and wisdom awareness, which is for special insight. Thus, the Ornament of Mahayana Sutra says: Excellent wealth excellent body, And excellent surroundings Are for temporary higher status. And so forth.

**繁栄** (はんえい) PC 辞典

豊かにさかえること。さかえて発展すること。

**戒** (かい) 仏教語大辞典

悪を止め、善を修、行いを慎むための戒めをいう。その戒めとして、あやまちを防止するための規則が説かれ、その規則を守ると誓うことによって仏教徒の一員になるものとする。

**眷属** (けんぞく) 仏教語大辞典

親類、師弟の関係にあって互いに相随順する出家、在家の者。狭くは仏の親族、広くは仏の教えを受ける者すべてをいう。仏・菩薩の弟子。

**至善** (しぜん) 仏教語大辞典

最上の善。この上ない善根。

**止住** (しじゅう) 仏教語大辞典

①ある距離を置くこと。弟子は師に対し七歩の距離に身を置く。 ②居を占めて住すること。とどまり住すること。 ③心の想念をすべて静め、その状態にとどまること。

**勝観** (しょうかん?) 仏教語大辞典・PC 辞書にない

wisdom awareness, which is for special insight **特別な洞察のための知恵の認識**

### 順序の決定

順序の決定は、[心] 相續に生ずる次第です。施したことにより、[受用すべき] 資財を顧みずに、戒を正しく受けるのです。戒を具えたなら、忍ずることになるのです。忍を具えたことにより、(H71a)精進を行うことができるのです。精進を行ったなら、等持(三昧)が生ずることになるのです。等持に入定したなら、真実を如実に知るのです。

または、劣ったものと勝れたものとの順序です。[すなわち] 劣ったものは前に説いて、最上に住するものは後で説いたのです。

または、微細なものと粗大なものとの順序です。[すなわち] 各々粗大であるもの、各々入りやすいものを前に説いて、各々微細であるもの、各々入りがたいものを後で説いたのです。

そのようにまた『莊嚴經論』(注釈 7)に「前に依って後が生ずる。劣ったものと勝れたものとして住するから、そして粗大と微細であるから、それらは次第に住する※のです。」と説かれています。

2. Definite Order. They are explained in the order they develop in the mind. Through the practice of generosity, one will accept the pure morality without focusing on material concerns. When one has moral ethics, one will have patience. When one has patience, one can make effort with perseverance. When one has made effort with perseverance, ance, meditative concentration will arise. When one is absorbed in meditative concentration, one will perfectly realize the nature of all phenomena. Or, the order is explained from lower to higher practice. Those which are lower are explained first and the superior ones are explained later. Or another way, the order is from the gross to the subtle level. Those which are more gross or easier to follow are explained first and those which are subtle and more difficult to follow are explained later. The Ornament of Mahayana Sutra says: The second arises in dependance on the first; Because some abide lower and higher, Because of being gross or subtle, In this way, the orders abide respectively.

(注釈 7)…それらは次第に住する※のです。」と説かれています。

原典では「説かれた」。;『教次第大論』に言及。 ← イミフ?

### 自相

菩薩の施しなどの波羅蜜の自相(定義)は、四種類を持っているのです-

- 1) 所対治分を損傷することと、
- 2) 無分別の智慧を生じさせることと
- 3) 欲することすべてを完成させることと、
- 4) 有情達を円熟させる三種類の [の乗] です。

そのようにまた『莊嚴經論』(訳註 8)に、「施しは所対治分を損なうこと、無分別智を具えること、欲することすべてを完成させること、有情を成熟させる [三乗の] 三種類です。」(V157)などと説かれています。

3. Characteristics. The perfection of each of the six paramitas of the bodhisattvas, generosity and so forth, is categorized into four characteristics: they decrease their opposites; they produce the primordial wisdom of nonconceptual thought; they fulfill all that is desired; they mature all sentient beings in the three ways.' The Ornament of Mahayana Sutra says: Generosity destroys its opposite, Possesses the primordial wisdom of nonconceptual thought, Fulfills all desires, and Matures sentient beings in the three ways. And so forth.

『莊嚴經論』(訳註 8)

『莊嚴經論世親釈』に四つの理由として各々、「慳を捨てたから」、「法無我の証得を具えているから」、「およそ欲しい者に対してそれを施すから」、「施しにより摂取してから、三種類の乗に福分のおりに結びつけるから」という。

### 理由を付けてみると

- 1) 「慳 [けん] (ものおしみすること) を捨てたから」 所対治分を損傷する  
布施出来る?
- 2) 「法無我の証得を具えているから」 無分別の智慧を生じさせる
- 3) 「およそ欲しい者に対してそれを施すから」 欲することすべてを完成させる
- 4) 「施しにより摂取してから、三種類の乗(彼岸に至らせる乗り物：仏の教え) に福分のおりに結びつけるから」 有情達を円熟させる三種類の [の乗] です

#### 語釈

語釈は、(訳註 9)貧窮を捨てさせるから、施しです。清涼を得させるから、戒です。怒りを忍受させるから、忍です。最上に相応させるから、精進です。意を内に保持させるから、静慮です。(H71b)これにより勝義を知るから、智恵です。これらにより、輪廻の彼岸 [である] 涅槃に到らせるから、羅蜜(到彼岸)です。

そのようにまた『莊嚴經論』(訳註 10)に、「[六波羅蜜は各々、)貧窮を捨て去る、清涼を得る、怒りに忍耐する、最上に相応させる、意を摂持する、勝義を知るからと、説明された。」と説かれています。

4. Definition. "Generosity" dispels poverty, "moral ethics" achieves coolness,<sup>2</sup> "patience" endures hatred, "perseverance" applies to the Supreme One, "meditative concentration" brings the mind inside, and "wisdom awareness" realizes the ultimate meaning. They are the cause to cross samsara and achieve nirvana. Therefore, they are called "paramitas."<sup>3</sup> Thus, the Ornament of Mahayana Sutra says: Therefore it is said: Dispelling poverty, Obtaining coolness and enduring hatred, Applying to the supreme and holding the mind inside, Realizing the ultimate meaning.

### 書き直してみると

- ① 貧窮を捨てさせるから、施しです
- ② 清涼を得させるから、戒です
- ③ 怒りを忍受させるから、忍です
- ④ 最上に相応させるから、精進です
- ⑤ 意を内に保持させるから、静慮です
- ⑥ これにより勝義を知るから、智恵です

### 区別

区別は、施しの施し、施しの戒など、波羅蜜各々についてもまた、六つずつに区別します。そのように三十六です。

そのようにまた『現観莊嚴論』(訳註 11)に、「施しなど六種類に、それらを個々に包摂したことにより、鎧の修行なるものそれは、六部類の六つによりそのように説明されている。」と説かれています。

5. Division. Generosity of generosity, moral ethics of generosity, patience of generosity, perseverance of generosity, meditative concentration of generosity, the wisdom awareness of generosity, and so forth—each of the six has six divisions, totaling thirty-six. Thus, the Ornament of Clear Realization says: The six paramitas, generosity and so forth, Grouped individually Are the practice of the armor of enlightenment Which precisely explains multiplying six by six.

6 × 6 = 36 それぞれ後述？

### 包摂

包摂は、資糧は[福德と智慧]の二種類に包摂されています。施しと戒は福德の資糧です。智慧は智慧の資糧です。忍と精進と静慮との三つは二資糧ともに属しているのです。

そのようにまた『莊嚴經論』(訳註 12)に「施しと戒は福德の(V158)資糧です。智慧は智慧の[資糧]、他の三つ[忍と精進と静慮]は両者の[資糧です。』と説かれています。

[以上が]『正法如意宝珠・解脱の宝の莊嚴』より、「六波羅蜜の設定」を説いた第十一章です。

6. Grouping. They are also grouped into the two accumulations. Generosity and moral ethics are the accumulation of merit, and wisdom awareness is the accumulation of perfect wisdom. Patience, perseverance, severance, and meditative concentration are included in both accumulations. Thus, the Ornament of Mahayana Sutra says: Generosity and moral ethics Are the accumulation of merit. Wisdom awareness is the accumulation of perfect wisdom. The other three belong to both. This is the eleventh chapter, dealing with the explanation of the six paramitas, from The Jewel Ornament of Liberation, the Wish fulfilling Gem of the Noble Teachings.

**包摂** (ほうせつ) PC 辞典  
一定の範囲の中につつま込むこと

**資糧** (しりょう) 仏教語大辞典

① 仏道修行のかてとなる善根功德。 ② 悟りの智慧の助けとなる仏道修行。 ③ 「しりょうい(資糧位)の略。 ④ 資金と食料。布施の金品。